読解検定送信フォーム（←国語読解クラスの受講生で、読解検定を受けなかった人は、このフォームから送信してください。）

読解検定長文小１秋11月　講師コード：　　パスワード：　　） 送信

読解マラソン集 ５番 梅雨の季節になると u3

梅雨の季節になるとよく見かけるカタツムリ。まるでシャワーを楽しむように雨の中をのんびりと散歩しています。カタツムリは虫ではありません。海に住む貝の仲間なのです。昔々、カタツムリは水の中に住んでいました。ですから、陸に上がって生活するようになった今でも、雨の降る日が大好きなのです。からっとさわやかに晴れた日や暑い日は大の苦手です。しかし、殻があるから、からからに乾いてしまうことはありません。暑い日は、木の葉や草の陰に隠れてじっとしています。梅雨の季節にあれだけよく見かけることができたカタツムリが、夏になるとすっかり消えてしまうのはそのためです。カエルやヘビが冬眠するように、カタツムリは夏のあいだ、ひたすら眠り続けます。そして秋になり雨が多くなってくると、眠りから覚め、活動を開始するのです。

動物や昆虫にはオスとメスの区別があります。けれども、カタツムリにはオスもメスもありません。一匹のカタツムリがオスの役目とメスの役目をするのです。だから、どのカタツムリも大人になると卵を生みます。一回の産卵で二十個から六十個の卵を生みますが、一つの卵を生むのには十分から二十分もかかります。卵からかえったカタツムリの赤ちゃんは、生まれたときから殻があります。

言葉の森長文作成委員会（ω）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

読解マラソン集 6番 画用紙と色鉛筆 u3

画用紙と色鉛筆を手渡され山の絵をかくようにいわれたらほとんどの人が緑色の山の絵をかくでしょう。一面を緑色の木でおおわれているのですから、たしかに山は緑色です。しかし、秋になるとまるでてきな衣装をまとったかのように、山は赤や黄色に色づいてきます。これを紅葉と言います。紅葉が美しいことで有名な山は、たくさんの人でにぎわいます。紅葉狩りという言葉を耳にしたことがありませんか？　美しく色づいた木や山を楽しむということです。山に出かけなくても公園や街路樹の木も美しく色づきます。真っ赤なもみじや黄色のいちょうなど、みなさんも見たことがあるはずです。

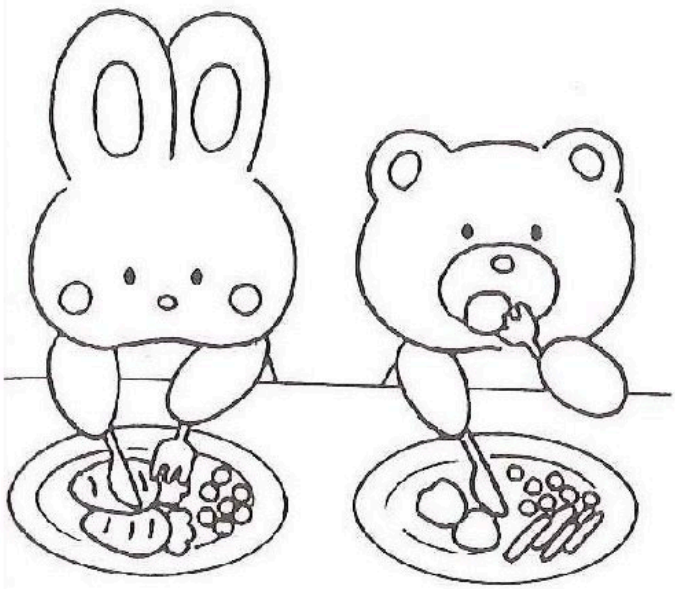
では、どうして秋になると木の葉の色が変わるのでしょう？　これは冬になって葉を落とすための用意をしているからなのです。

木には、冬に葉の落ちる落葉樹と冬に葉の落ちない常緑樹とがあります。冬に葉の落ちる木は、夏の日差しの強いときは光のエネルギーでたくさんの栄養を作ります。しかし、冬になって日差しが弱くなると、栄養を作るよりも、乾燥や寒さから身を守るために葉を落とすのです。落葉樹は、「冬になったら、葉を落としたほうが楽よう。」と思っているのでしょう。

葉の緑色の部分は、光を栄養に変えるところです。落葉樹は、葉を落とす前に、だんだんと緑色の部分を少なくしていきます。そのため、黄色や赤といった緑色以外の成分が顔を出してくるのです。

木の葉が美しく変身するには、昼間の気温と夜の気温の差が大きいほうがよいそうです。また、空気が澄んでいて葉に十分な日光が当たることも大切な条件になります。

言葉の森長文作成委員会（ω）



読解マラソン集 7番 ◎インドという暑い国に u3

インドという暑い国にカルカッタという大きな町があります。この国は貧富の差がとても大きい国です。つまり、お金持ちは気が遠くなるほどの財産を持ち、貧しい人々は、今日食べるものにも困ってしまうという具合です。そんな豊かな暮らしを送っているある家に、幼い男の子がいました。毎年、その子の誕生日がやってくると、家をあげての盛大なパーティーが繰り広げられます。そして、たくさんのプレゼントがこの子に贈られるのでした。

ある年の誕生日のことです。

「今年はどんなプレゼントがほしいの？」

とたずねられたその子は、お父さんの目をじっと見つめてこう言いました。

「ぼくは何もいらないんだ。パーティーをするお金やプレゼントを買うお金を全部、マザー・テレサのところにあげてください。貧しい人たちを助けたいんだ。」

はっとした両親は、この子を連れてマザーテレサのもとをおとずれ、お金の入った封筒をさし出しました。両親はこの男の子からとても大切なことを教えてもらったのでした。

地球上の貧富の差は、なかなかなくなりません。しかし、もし、ある人が自分の幸せをほかの人に少し分けることができ、そして、その人もまた自分の幸せをほかの人に少し分けることができたらどうなるでしょう。分けられた豊かさは次々と広がっていき、やがて地球上から貧しさはなくなっていくでしょう。

言葉の森長文作成委員会（ω）

読解マラソン集 ８番 どこの水族館でも u3

どこの水族館でも人気のショーといえば、イルカのショーでしょう。水の中を気持ちよさそうに泳いでいるイルカは、実は魚の仲間ではありません。私たち人間と同じほ乳類と呼ばれる生き物なのです。私たちは水の中で呼吸をすることはできません。それと同じように、あれほど自由自在に泳ぎ回れるイルカも、水の中では呼吸ができません。イルカの頭の上には噴気孔と呼ばれる小さい穴が開いています。イルカは、私たちの鼻の穴のように、この穴をつかって呼吸をしているのです。

イルカは、昼間起きているときには、一分間におよそ六回、水から頭を出して呼吸をします。そして、眠りにつく夜は、昼間のほぼ半分の二回から三回呼吸をします。ですから、水面に近い浅いところをゆっくりと泳ぎながら寝ているのです。

けれども、餌をとるために深くもぐる必要があるときなどは、十五分くらいの間は息を止めていることもできます。

生物は昔、海から誕生しました。魚のひれが足になり、地上を歩き回る生物になりました。イルカの先祖も、大昔は、地上を歩いていたのでしょう。それがなぜか「やっぱり海にいるか。」と、再び海に戻り、自分の手足を泳ぐのに適したひれのような形に変えていきました。海に戻ったイルカが今どんな気持ちでいるか、聞いてみたい気がします。

言葉の森長文作成委員会（ε）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01